

27. 仙台空港旅客ターミナル 動線分離、サイン環境の工夫、広々とした空間による利用しやすいターミナル

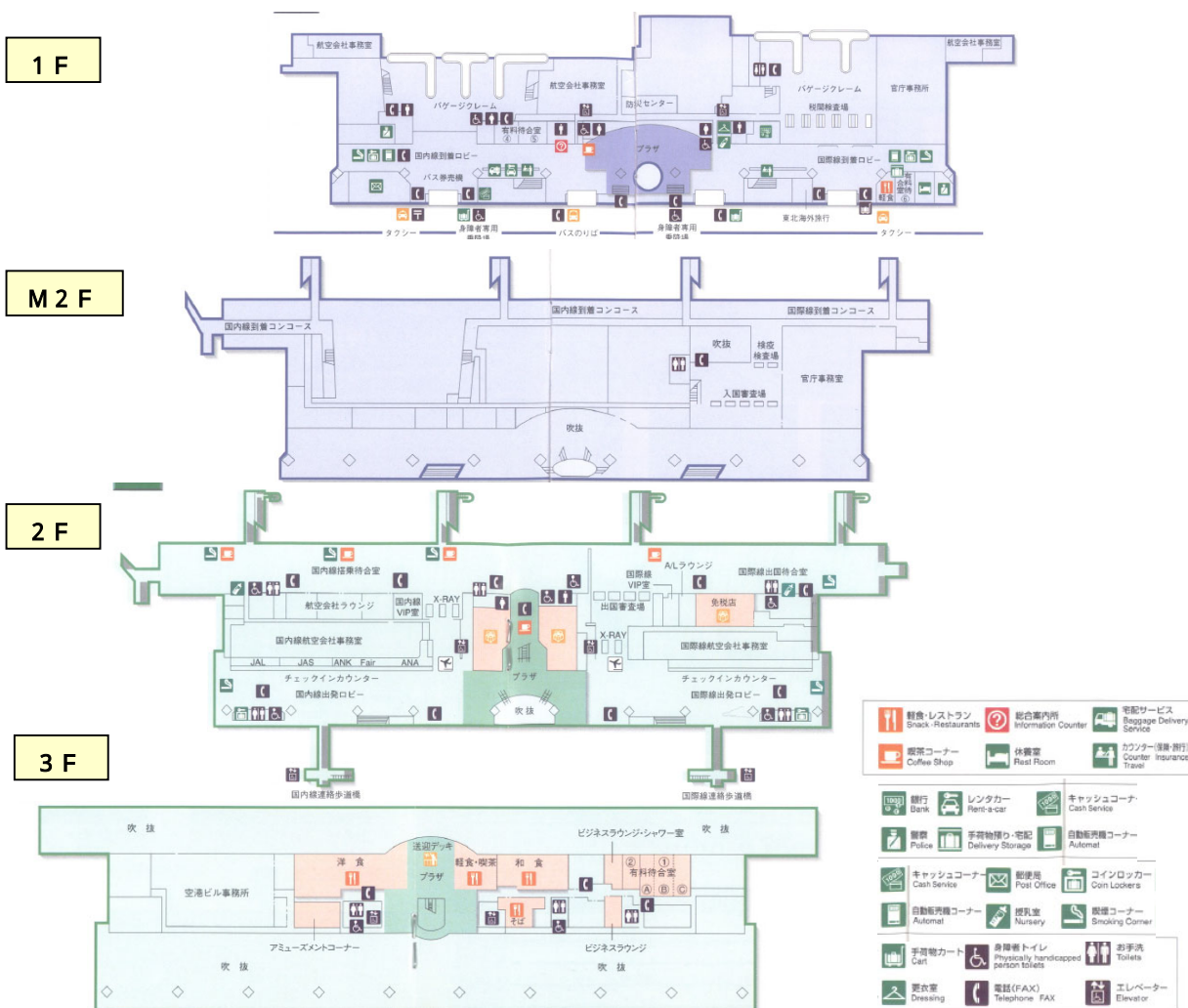
背景

仙台空港旅客新ターミナルは、東北の空の玄関口として地域の大きな期待を担っており、高齢者や障害者等のバリアフリー的視点に基づき整備を行った。

概要

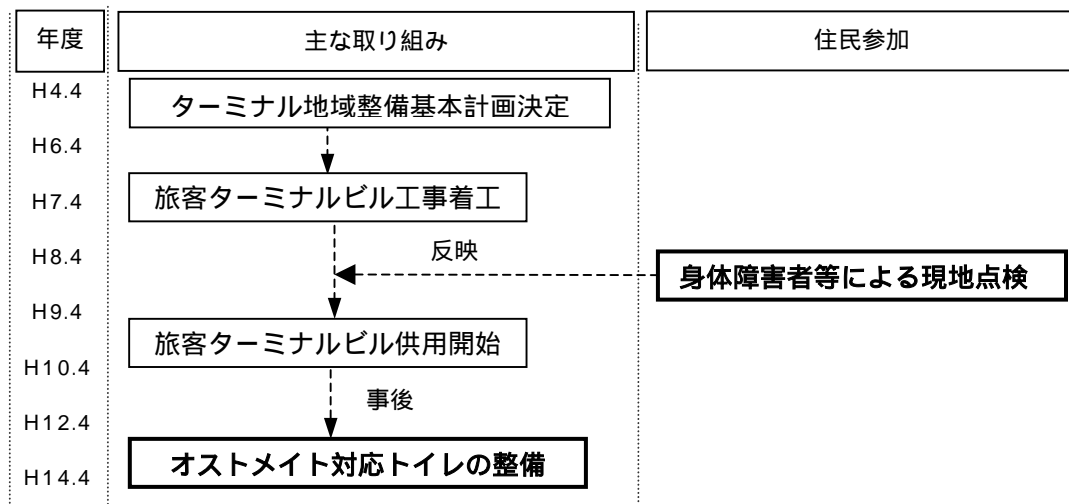
旅客ターミナルは到着系施設を1階に、出発系施設は2階に集約され、動線分離を実現した施設構成である。建物の内部は、ゆとりとやすらぎを感じさせる広々としたスペーシングで、開放感にあふれている。

建設経過	平成6年7月着工、平成9年5月完成、平成9年7月供用開始
建設規模	地上4階、地下1階、建築面積18,000m ² 、建築延床面積43,530m ² (国際線部分18,200m ² 、国内線部分22,330m ² 、中央プラザ部分3,000m ²)
乗降客数	平成12年度実績で、国際線471,699人、国内線2774,526人(合計3246,225人)
施設概要	<p><1F> 到着ロビー、プラザ、パゲージクレーム、税関検査場、有料待合室</p> <p><M2F> 旅客通路、入国審査場、検疫検査場</p> <p><2F> 出発ロビー、ショッピングゾーン、搭乗待合室、出国審査場、出国待合室</p> <p><3F> 飲食店街、展望デッキ、有料待合室、ビジネスラウンジ、アミューズメント</p>



経緯

これまでの主な流れは以下のようになっている。



特徴

身体障害者等による現地点検

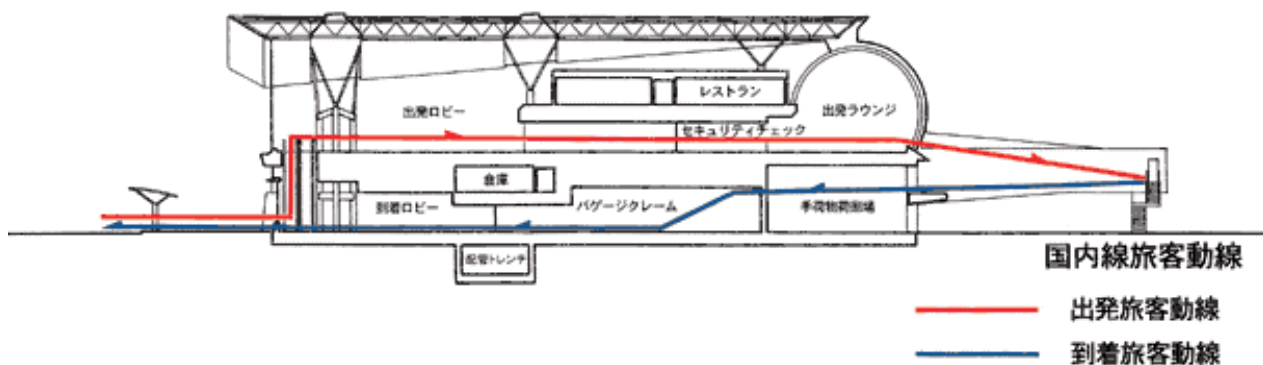
ターミナルビル建設時に身体障害者等による現地点検を行った。施設点検後に出た意見や要望を基にエレベーターやトイレの改良、段差の解消、また施設や案内の色遣いや形（弱視者への配慮）に配慮し整備を行った。

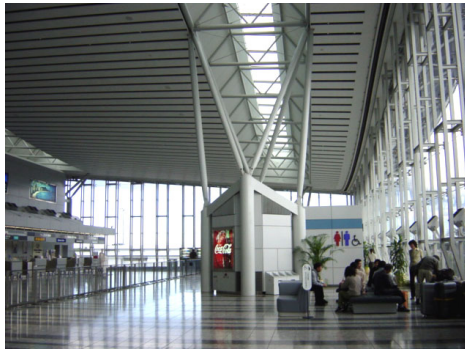
オストメイト対応トイレの整備

旅客ターミナルビル整備後に交通バリアフリー法が制定され、現在バリアフリーの移動円滑化基準に適合するように施設改善を図っている。現時点では、障害者トイレをオストメイト対応の多機能トイレに改善し、今後も徐々に部分的な整備を進める予定としている。

< 整備事例 >

初めての利用者にとっても施設の分かりやすさを考慮し出発旅客動線を2Fに、到着旅客動線を1Fと分離している。





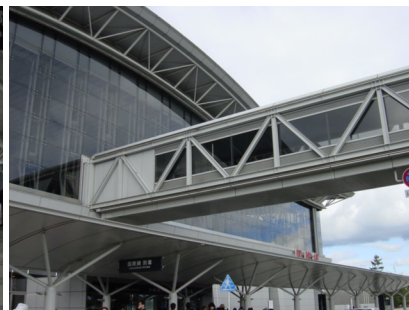
広告物は規制し、不要なサインを除去したことにより、施設位置等の情報を分かりやすくした。



日・英文併記のピクトグラムを多用している。



1階到着口近くの自動車乗降場に車いす利用者が乗降できるスペースが確保されている。それに隣接して2階の出発口へアクセスできる車いす対応型エレベーターを設置し、移動しやすいようにしている。



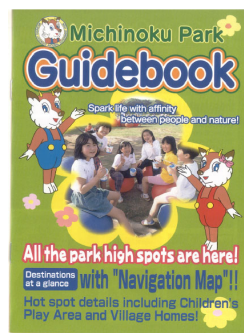
自然光を取り入れ、昼間等は人工照明を必要とせず省資源化が図られている。

<多言語で作成されたパンフレット等の設置>

パンフレット等は多言語で作成されたものを用意しており、特に国際空港の利用者にとって便利なものとなっている。



日本語版



英語版



韓国語版

今後の展開(課題、推進の方向性)

- ・ 仙台空港は、交通バリアフリー法が制定される前に身障者等による施設のバリアフリー点検を行った上で整備を行ってきた。しかし、交通バリアフリー法とともに旅客施設の移動円滑化基準が出されたが、その基準に適合しない部分が存在している。今後、移動円滑化基準に基づき、計画的に対応を図っていく予定としている。
- ・ 仙台市中心部から同空港までは公共交通機関がなくリムジンバスや自動車の利用が中心となっている。このため、平成 18 年度の開業を目指し、JR 名取駅と仙台空港を結ぶアクセス鉄道の整備が進められており、これにより仙台空港から仙台駅まで最短 17 分で結ばれることになる。

問い合わせ先等

【問い合わせ先】宮城県土木部空港対策課

【関連ホームページアドレス】<http://www.pref.miyagi.jp/kutai>